

北白川の遺跡散歩

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



北白川の遺跡マップ

比叡山西南の麓、白川の流れが作り出した扇状地には縄文時代以来、多くの遺跡が残されています。北白川の遺跡は『リーフレット京都』でも幾度かとりあげてきましたが、今回は遺跡や史跡を訪ねて歩いてみましょう。

京都市の遺跡台帳によれば、このあたりには数多くの遺跡が登録されています。まず、時代を追ってみていきます。

縄文時代では、配石墓や甕棺墓、竪穴住居が発見された上終町遺跡、小倉町別当町遺跡、北白川追分町縄文遺跡、京都大学構内遺跡が付近に広がっています(リーフレット京都No.87)。

弥生時代では、水田や水路、方形周溝墓などが京都大学構内遺跡群で見つかっています。

古墳時代には、石室をもつ円墳の池田町1・2号墳、追分町1・2号墳がありました。現在は壊されて住宅地になっています。

飛鳥・奈良時代には、回廊に囲まれた堂塔をもつ寺院が建立されていたことがわかる北白川廃寺跡、北白川1～4号窯跡のような奈良時代の瓦窯も築かれていました(同No.93)。また、小倉町別当町遺跡では住居跡が発見されており、この寺院に関連した集落があったと考えられています(同No.82)。

平安時代には目立った遺跡があ

りませんが、古代の埋葬法で作られた鎌倉時代の火葬塚が京都大学の北部構内で発見され、京都市の史跡に登録されています。

中世の戦国時代には、瓜生山城とも呼ばれる北白川城跡があり、大永七年(1527)細川高国の築城とされています。

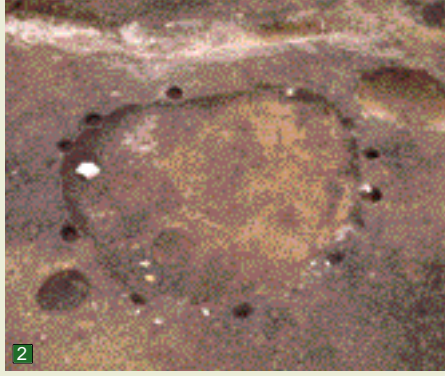
近世では、滋賀から山中越えをへて京都の荒神口までを結ぶ白川道の遺構が京都大学の構内で発見されており、古い道筋が復元されるようになりました。

それでは、このリーフレットを片手に、深まる秋の北白川に遺跡を訪ねて散策してください。

(長戸 満男)



1 北白川瓦窯跡 大正2年に奈良時代から平安時代前期の窯跡4基が半壊の状態を確認された。ここからすぐ北、京都造形芸術大学天心館内の芸術館には縄文コレクションがある。
アクセス/市バス[上総町]



2 北白川廃寺下層遺跡 1991年の調査で縄文時代早期の竪穴住居跡と集石群を検出。原寸大の型取り模型を考古資料館に展示している。



3 北白川廃寺 1995年の調査で、平安時代に瓦積みから石積みで改修されていた西方伽藍の塔の基壇跡を検出した。昭和9年の発見以来、数次にわたる調査を重ねている。



4 小倉町別当町遺跡 北白川小学校内の調査ではこれまでに19棟の竪穴住居跡を発見した。1994年の調査(左)では無文銀銭(中)が京都府内で初めて出土。小学校内には考古資料の一部がある(上)。*資料の見学は小学校までご連絡下さい。



9



10

9 子安観世音 10 道標と石仏 白川の村の入口で人々の安全を見守った鎌倉時代の石仏(9)と、今出川通をへだてて南側の吉田神社北参道の入口にある江戸時代の道標(10)。
アクセス/市バス[北白川]



6

6 京都大学構内火葬塚 1978年北部構内の調査で発見され、現地に保存されている鎌倉時代の方形火葬塚跡。京都市の史跡に指定され、説明板が設けられている。



5

5 北白川追分町縄文遺跡 1974年の調査で配石墓と甕棺墓からなる縄文時代後期の墓地を発見した。京都大学理学部植物園内に移築復元されている。
5・6のアクセス/市バス[農学部前]



7 京都大学総合博物館 京都大学構内で発掘された資料や研究成果が豊富に展示されている。東大路通に入口がある。
アクセス/市バス[百万遍]



8

8 京都大学構内遺跡 1995年今出川通の道路中央の調査(左)で、縄文時代から室町時代までの遺構を多数検出。写真は縄文時代後期の深鉢形土器(中)と弥生時代前期の甕形土器(右)とともに人骨は出土していないが、埋葬に関する加工跡のある土器棺墓であった。



11

11 北白川天神宮 室町時代に創建されたと伝えられる北白川の産土神。
アクセス/市バス[銀閣寺道]